



# 語り継ごう 奄美の伝統文化



令和元年度版



## 節田マンカイ 奄美市

所在地: 奄美市笠利町節田  
団体名: 節田マンカイ保存会  
「正月まんかい」ともいわれ、冬の室内での遊びです。男性の列と女性の列が向き合って座り、両手または片手を軽く叩き合ったり、高く低く手舞いをしたり、胸や膝を叩いたり、マンカイ(手招き)の動作(所作)をしながら男女が歌を掛けあっていく遊びです。



## 井之川夏目踊り 徳之島町

所在地: 大島郡徳之島町井之川  
団体名: 井之川夏目踊り保存会  
夏目踊りは「浜下り」と言う祖霊祭と水稻の収穫感謝祭の2つの要素をもった祭りの夜に、豊作の感謝と来年の予祝を願って各家々を夜を徹して踊り歩く古式豊かな集団舞踊です。その踊りの輪の中にあるとき、井之川に生まれ育った人々の連帯は言わず語らずのうちに自然に出来ます。まさに人々の心に親睦と和をもたらしてくれる祖先たちの魂の遺産です。



## 大棚八月踊り 大和村

所在地: 大島郡大和村大棚  
団体名: 大棚八月踊り保存会  
大和村の中でも、八月踊りが活発に行われている大棚集落は、早々に保存会を立ち上げ、アラセツやシバサン、豊年祭、奄美祭り等様々な場面で郷友会と一緒に唄い踊ります。男女が輪になり、交互に掛け合いながら唄が盛り上がってくると、手足が追いつかなくなるほどあらしやげる(テンポアップする)踊りが見所です。



## ハマヤキトシ 天城町

所在地: 大島郡天城町西阿木名  
団体名: 西阿木名民謡保存会  
ハマヤキトシは西阿木名集落の歳の祝行事の最後に踊られる芸能で、地謡による演奏に合わせて、釣り人役と、頬被りした道化役の二役が舞踏と台詞を交えて滑稽なやり取りを演じます。最終的に、供え物の鯛を釣り上げ、それを捌く様子が演じられて終了しますが、芸能が終了した後、鯛は実際に捌かれて来場者すべてに振る舞われます。



## 芦検稲すり踊り 宇検村

所在地: 大島郡宇検村芦検  
団体名: 芦検民謡保存会  
昭和13年に田植え祭りへ奉納する踊りとして始まり、ウスヤツチ、サンバラなどの古い生活用具を使い農作業の様子を軽快なリズムの踊りで表現しています。現在も芦検集落の豊年祭で踊り継がれており、また、宇検村を代表する伝統芸の一つで様々な場所で披露されています。



## シオンマイカ 伊仙町

所在地: 大島郡伊仙町面縄  
団体名: 上面縄シオンマイカ同好会  
「シオンマイカ」のルーツは「風の盆」で有名な越中富山の「おはら節」と言われています。大正の初期から上面縄集落で、唄い踊り継がれる男女かけ合いの唄で、最初はゆっくりで後半にテンポが速くなります。十五夜祭りや文化祭・小中学校の体育大会で全体踊りとしても、取り入れられています。



## 油井の豊年踊り 瀬戸内町

所在地: 大島郡瀬戸内町油井  
団体名: 油井豊年踊り保存会  
旧暦8月15日に行われる民俗芸能「油井の豊年踊り」は、微笑みをたたえた表情の紙面(カミメン)をつけ、多彩、かつユーモラスに伝承されてきています。この芸能は、豊年を神に感謝するとともに、更なる豊年を祈願する姿を、古式豊かに今に伝えている県指定無形民俗文化財です。



## 組踊「高平良(万才)」 和泊町

所在地: 大島郡和泊町畦布  
団体名: 畦布伝承舞踊保存会  
父を高平良御鎮に殺された兄弟があだ討ちを果たす組踊「万歳敵討」と同じですが、一部役名が異なります。畦布字の中村スエさんの記憶を基に芸士の協力で60年ぶりに復活上演しました。那覇万才に乗せて勇壮活発に「棒万才」、兄弟の供をする京太郎が登場するなどの特色が見られます。今回の公演を機に先人達が守り受け継いできた貴重な伝統芸能を畦布の誇りとして、次世代へ継承していきます。



## 平瀬マンカイ 龍郷町

所在地: 大島郡龍郷町秋名  
団体名: 平瀬マンカイ保存会  
平瀬マンカイとは、アラセツの日の夕方に行われる女性中心の収穫感謝・豊作祈願の祭りのことをいいます。平瀬とは平らな岩。マンカイは稲魂を手招くことを意味するといわれています。「神平瀬」にノロ役が5人、「女童平瀬」には男女の神役7人がのぼり、交互に歌をうたい、稲魂を手招くことを繰り返します。



## 西目イシシハカマ踊り 知名町

所在地: 大島郡知名町上城  
団体名: 西目イシシハカマ踊り保存会  
江戸時代の終わり頃、代官付人として鹿児島に渡った沖野松盛翁が歌を持ち帰り、それに三味線や踊りを取り入れ完成させたといわれています。歌詞は江戸時代に流行した地歌や祝儀歌と同じ内容です。上城の高野家を中心に伝承されていましたが、現在は西目地区で伝承されています。



## 荒木集落「棒踊り」 喜界町

所在地: 大島郡喜界町荒木  
団体名: 荒木青年団  
種子島に移住した荒木集落民の子孫が大正7年、「しめばた」修行のため帰郷した折に始まり、以後、集落行事の度に青年団によって踊られています。荒木集落の棒踊りは薩摩式棒踊りともいわれ、本土や種子島の棒踊りに比べテンポが速いのが特徴です。



## 与論十五夜踊り 与論町

所在地: 大島郡与論町大字立長  
団体名: 与論十五夜踊り保存会  
与論十五夜踊りは、旧暦3月・8月・10月の各十五日に、島民慰安と島中安福・五穀豊穡の祈願・感謝の意味を込めて行われる奉納踊りです。由来は、花城世之主が3人の子息たちに奄美大島・琉球・日本本土の踊りを調べさせたものを組み合わせて、永禄4(1562)年に創始したといわれています。

## 大島地区文化協会連絡協議会

(事務局: 鹿児島県大島支庁総務企画課 〒894-8501 奄美市名瀬永田町17番3号 TEL 0997-57-7218)